

2018 年度 年次報告書（アニュアルレポート）



一般社団法人 こどものホスピス・プロジェクト

一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト
〒538-0035 大阪市鶴見区浜1丁目 1-77
あそび創造広場 TSURUMI こどもホスピス
TEL 06-6991-9135 FAX 06-6991-9136
Email: info@childrenshospice.jp
<http://www.childrenshospice.jp>

<はじめに...2018 年度の重点として>

TSURUMI こどもホスピス(TCH)は、生命を脅かす病気（LTC: Life-threatening Conditions）とともに生きる子どもとその家族が、そして、私たち地域社会の一人ひとりが、生命の尊厳について考え、子どもが大事にされる地域社会をつくろうと願い、地域における小児緩和ケアを実践する場の一つです。2018 年度は、以下の3つのことに重点を置き、様々な取り組みを一つひとつ進めてまいりました。

①体験プログラムなど、子ども同士の経験を充実させる取り組み

LTC の子どもたちがどんな状態であっても、同世代の子どもたちと同じ経験を生きることを支える子どもホスピスとして、子どもの自我と発意に準じた、社会的な関わりや体験するプログラムを開催。多様な体験の機会を通じて、その道のプロから学んだり、様々な内容のクラブ活動を行ったり...。少しでもその子らしい時間を持つことができるよう、様々な支援者と連携しながら、各種プログラムを作り上げていきました。

TCH2018 at a glance ～2018 年度の TSURUMI こどもホスピスの 1 年



2018 年度年次報告書（2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）

②医療連携の強化（コミュニケーションの増強）

パーソナルケアの充実のためには、子どもたちが治療を受けている病院との連携が欠かせません。大阪市立総合医療センターの主治医をはじめ、各病院の医療関係者と対話を重ね、継続性のある子どもへのケアを進めるよう努力しました。

③チャリティプログラムの充実とファンレイジングの強化

つながりができたご支援者との関係を生かして、様々なファンレイジングプログラムやイベントを開催し、寄付財源の獲得に注力しました。また、新たにできたつながりから継続的な支援者となるマンスリーサポーターやスポンサーの拡大につなげました。



世界水準のこどもホスピスとして

- 友として関わる（Friendship）
- 病院ではなく家である（Home from home）
- 地域に根差した自発的な活動（Local Initiative）
- 寄付による慈善活動である（Free standing）

9月

10月

11月

12月

2019年1月

2月

3月

その子と家族の大事な時間、お泊り



ホンモノの体験を！体験プログラム



アドベンチャーワールドがやってきた！



ランナーが83名も！大阪マラソンチャリティ



様々なチャリティ活動も！



今年はバルーンクリスマス！



子どものことを想う
メンバーからの語らい



ハウスをきれいに！ボランティアの活躍！



広場に園路ができました！



1・ホスピスケア活動としての取り組み

はじめに...TSURUMI こどもホスピスには、以下のような特徴があります。

- ・LTC(Life Threatening condition：生命を脅かされた状態)の子どもの「今を生きる」「成長と発達」を大事に、社会で享受できないことが多い子どもと家族（保護者、きょうだい）を優先し、医療と連携しながら連続性のある、地域で支える小児緩和ケアを進めています。
- ・「利用者承認委員会」による審査によって登録利用者（メンバー）の承認と、利用内容の範囲を決定します。
- ・TCH の利用内容は子どもや家族と相談しながら決めていきます。
- ・子どもと一緒に遊んだり、ご家族に寄り添う看護師、保育士、療法士のスタッフが常駐して（医師はいません）、子どもたちの時間づくりをしています。また、イベント時には、ボランティアや地域の支援者と協働しながら、子どもの多様な体験の機会を創り出そうとしています。
- ・子どもが亡くなった後もご遺族が希望する限りメンバーであり続けることができ、「子どもとの記憶と思い出がある場所としてあり続ける」ことをビリーブメントケアの一つとしています。
- ・TCH は、鶴見緑地公園内に立地し（時間や場所を限定しながら）広場や施設の一部を「あそび創造広場」として開放。様々なプログラムを地域と協働しながら実施します。状況によっては、メンバーの子どもも参加し地域の子どものと一緒に遊ぶことも可能で、地域住民と分かち合える地域交流の場になっています。

1) 募集（広報）& エントリー

①エントリー手続きに関して

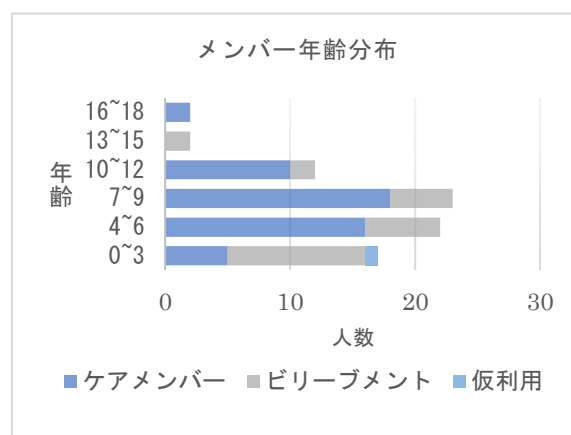
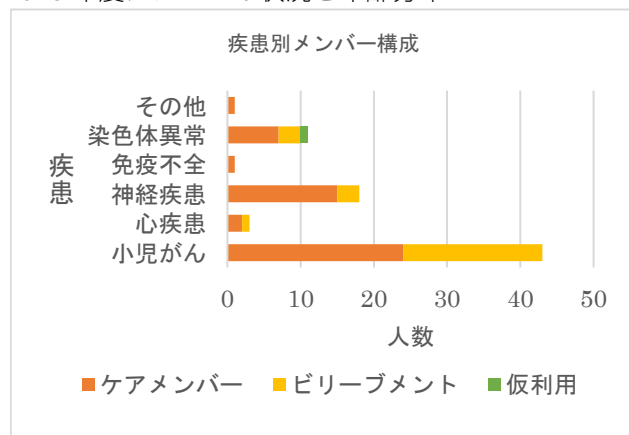
お問い合わせや医療関係者からのご紹介等で、以下の手順でメンバーエントリーや手続きを行ないました。

- 1.お問い合わせ...電話やメール等でスタッフが問い合わせに対応
- 2.見学、エントリー説明...個別見学でご利用方法を説明し、家族、医師2種類のエントリーシートを提出
- 3.仮利用、承認委員会審査、そして登録へ...病気の子どもの状態や見守るご家族の状況を踏まえ仮利用へ
- 4.メンバー承認・登録...メンバーの承認を確定し、正式に利用を開始。

	2016 年	2017 年	2018 年	2018 年度補足説明
継続メンバー	—	63 世帯	71 世帯	
新規メンバー	64 世帯※	26 世帯	9 世帯	+仮利用 1 世帯
当年度利用メンバー	64 世帯※	89 世帯	80 世帯	
当年度未退会メンバー	1 世帯※	18 世帯※	42 世帯	(うち、1 世帯はご遺族)
次年度への更新メンバー	63 世帯	71 世帯※	38 世帯	(うち、25 世帯はご遺族)

※過年度の 2016、2017 年度の事業報告書の中で、年度更新手続きの期限設定に違いがあり、一部数字が間違っていました。上記のように修正いたします。

②2018 年度メンバーの状況と年齢分布



③医療機関との連携強化

LTC の子どもとそのきょうだい・親が診断までもない時期から TCH を利用していただけるよう、大阪市立総合医療センターに定期的にスタッフが訪問したり、院内プログラムを開催。院内カンファレンスに出席を重ねました。まだ十分とは言えませんが、医療関係者とのコミュニケーションを重ねていくように努めています。

2) ケアプランとケア活動の概要

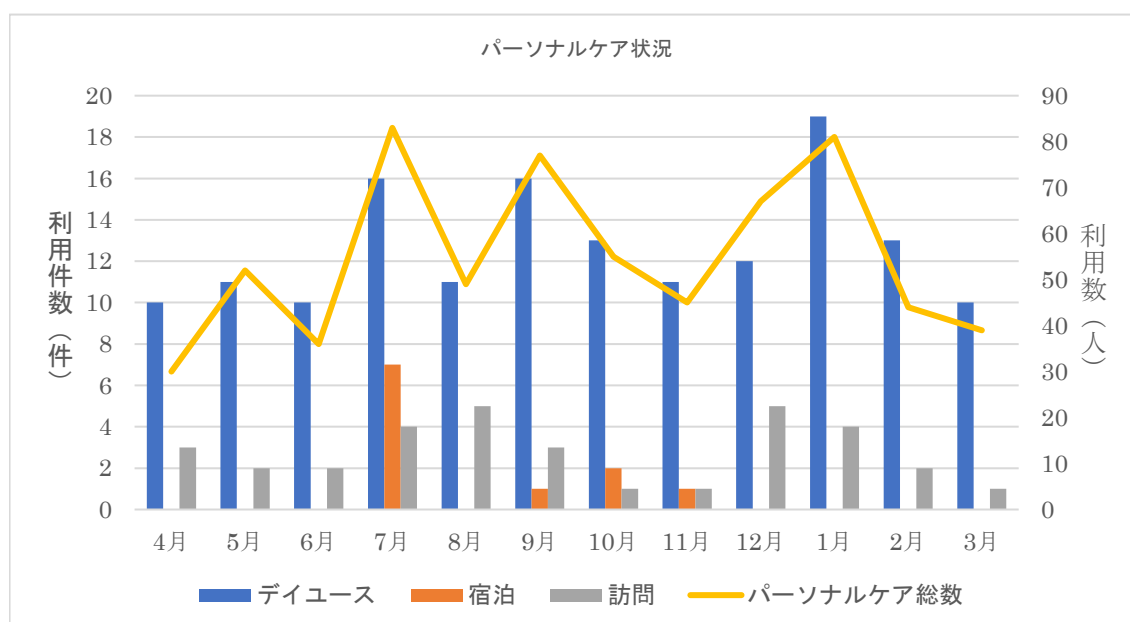
①メンバーの利用とその利用区分について

TCH の利用についてはメンバー規約を制定し、病状区分と課題のアセスメントをベースにしたケア活動を実施。2018 年度は、メンバーⅠⅡの子どもにパーソナルケアを提供しました。

I	緊急期	予後が極めて厳しい
II	急性期／不安定期	予後が明確でないが、非常に不安定な病状・治療中である。または、早期に亡くなる可能性が高い
III	慢性期／安定期	予後予測が困難な疾患・状態だが、現在は身体症状が安定している

②パーソナルケア活動について

子どもの入院生活では、きょうだい、家族との生活が分断され、その環境の変化は子どもの成長発達や心に大きな影響を及ぼします。病状とは関係なく、家族と一緒に過ごせる場所、それが私たちのホスピスの大きな特徴です。そのため平準化されたプログラムが不向きで、メンバーの子どもと家族の「個別ニーズ」や「本人の発意」を受けとめ、メンバーにとっての「やりたい」「実現したい」ことが一つでも多くできるようなパーソナルケアを実践しています。



□デイユース

子ども自身のやりたいことや、その子らしく過ごすことを一番に考え、家族でどのような時間にしたいかを家族と一緒に考え作っていく時間です。初めての見学から、「あれがしたい」「これで遊びたい」と、子どもの気持ちが普段とは違う環境の中で、普段あきらめてしまいがちなことも「やりたい！」意欲に繋がります。プールで泳ぎたい、ゲームで対戦したい、ブランコに乗りたい、かき氷を食べたい、お庭の水やりしたい、赤い車に乗りたい…。子どもの「やりたい」気持ちを叶えるための時間が、デイユースの中でたくさん作られました。

□ステイ（宿泊活動）

病状が重い子どもも、家族みんなで自宅や病院以外で過ごすことができる「お泊り」。子どもごと、家族ごとに、お泊りの意味は様々です。初めましての家族同士が一緒に泊まることで、普段できない話ができたり、子ども同士は自然と仲良くなったり、病気は違ってもお互いのことを理解し合える時間になったり…。家族間、子ども間、家族とスタッフ間、意図していない色んな相乗効果が生まれるのも宿泊活動ならではののかもしれません。意図した集団宿泊として、2018年度は「こどもキャンプ」を実施しました。親と離れ、ホスピスで一泊体験することは、普段おとなのそばにいる子どもの姿しか知らなかったその子の力、子ども同士の力が発揮されました。親にとっても子どもと離れる時間を作り出すことができ、親子にとっても成長の一步に繋がる機会になりました。また、病状がしんどくなる中でも、「泊まる。つまみでお風呂に入る」と来てくれた子どももいました。個別な状況に合わせた宿泊を少しずつですが積み重ねていながら、子どもの願いを叶えていっています。

□ビジット（訪問活動）

ホスピスを利用してきた子どもたちが、入院や病状の進行によって、だんだんハウスに来られなくなることがあります。病状や体調の変化によりTCHに来館できない子どもの入院先やご自宅に訪問し、本人の好きな遊びを一緒にしたり、やりたいことを叶えたりする「訪問活動」。その子の好きなものを持って行ったり、ちょっと顔を見に行くことで、入院中の気分がちょっと変わったり、子どもの生活に日常を少し持ち込むことも訪問の大事な意味だと感じました。音楽がとっても好きな子どもに、楽器をもつての訪問や、今できることを考えながら、子どもの時間を支えることを家族とともに取り組んでいきました。

③ゾーンプログラムやメンバーイベント（集団活動）の実施

メンバーの子たちの年齢や関心に合わせ、少人数のグループで活動するゾーンプログラムを実施。プロから学ぶ体験を通して、子ども自身の成長する力を育むプログラムや、子ども同士の繋がり、親同士の交流などの分かち合いの場を、メンバーと一緒に考えながら実施していきました。不特定多数が参加するイベントや公共の場での催し物に参加することが困難な子どもたちにとって、企業や団体のご協力によって、実現できたメンバーイベントは、家族みんなで安心して参加し楽しめる時間となりました。

ゾーンプログラム名	開催日	世帯数	子ども	大人
体験プログラム（ベネッセ助成）※	5～11月（月1回）	21	51名	36名
クラブ活動（ベネッセ助成）	5月～9月（月1回）	62	94名	20名
おとなサロン	4月～12月（月1回）	27	—	30名
こどもキャンプ	7/29 - 30	5	9名	
疾患別交流会	8/25	4	10名	7名
秋のお泊り会	10/27-28	2	4名	4名
水質調査勉強会（建設技術研協力）	11/10	2	2名	2名
メンバーイベント名	開催日	世帯数	子ども	大人
ユニクロ一日店長（ユニクロ協力）	6/30、3/9	3	7名	3名
ウォータースライダー	7/15	13	26名	24名
淀川花火大会（FUTMESSE 協力）	8/4	5	6名	10名
TCH 夏あそび（大芸大協力）	8/19	29	52名	41名
アドベンチャーワールドの動物たちがやってくる（アドベンチャーワールド協力）	10/21	38	71名	64名

※体験プログラムでは、友栄食品興業（パンづくり）、hairwill（美容師のしごと）、のあつく自然学校（おさかな倶楽部）、大成建設（建築士のしごと）の皆さまにご協力いただきました。

3) ビリーブメントケア（ご遺族とのつながり）に関する取り組み

□TCH のビリーブメントケア（遺族ケア）として

ご遺族の深い悲しみに寄り添い続ける、思い出の場所としてあり続けることが、TCH の取り組みの本質的な意味の一つです。18 年度に子どもを亡くされたご遺族は 11 組、そして、開設以降は計 26 組おられます。ご遺族の悲しみは言葉にできるものではありませんが、TCH でその子がきらきらとした瞬間を思い出しながら、泣いたり笑ったりしながら過ごす時間を持ったり、ハウスキープやチャリティなど「ともに TCH をつくる」仲間となって応援いただいたり…。私たちが「ともにあり続ける」ことが TCH のビリーブメントの一つのあり様であり、今後もともに歩んでいけたらと願っています。

□遺族支援チーム「ビリーブ」の取り組み

イベント名	開催頻度	参加者数
ビリーブのじかん	10 回開催	57 名

最愛のお子さまを見送られたご家族に、同じ体験を持つグループメンバーがピアボランティアとして「友のように」寄り添うことを目的とした CHP ビリーブメントグループです。「訪問・面談活動」を 5 回（ご自宅 2 件、TCH 2 件、電話 1 件）、「ビリーブのじかん」（語らいの時間）を 10 回開催。2018 年度末をもって CHP から独立し、任意団体「ビリーブメントケアチーム・ビリーブ」として新たに始動することになりました。

2・広場活動としての取り組み（あそび創造広場活動の推進）

TCH がある「あそび創造広場」は、子どもたちの創造性と協働性を育む、遊びと憩いの場です。子どもを心から大切に想う、ゆったりとした広場でありたいと考え、地域に開いた様々な活動を実施しました。



1) 各種地域向けの取り組み

① 地域イベントとしての取り組み

□子ども・ファミリーイベント...同じ世代の子どもたちが同じ経験ができるよう、そして、地域に開かれた子どもホスピスとなるように、あそび創造広場としての子どもやファミリー向けイベントを開催。また、実施にあたっては、プロボノの方や体験活動を提供いただける団体にご協力をいただきました。

イベント名	開催日	世帯数	子ども	大人
ウォータースライダー	7/15	4	9 名	5 名
TCH 夏あそび（大芸大協力）	8/19	5	10 名	8 名
アドベンチャーワールドの動物がやってくる	10/21	120	171 名	200 名
クリスマス飾りづくり	11/18	4	9 名	6 名
ボードゲームで遊ぼう	12/16	6	9 名	8 名
TCH こども音自慢大会（阪急うめだ店協力）	3/17	7	11 名	12 名

□地域向け啓発イベント、場の開放...TCH が取り組む社会課題の周知・啓発、地域社会のあり方を考えるきっかけになるよう、第 3 日曜日をパブリックデイとして、地域向けの様々な活動を開催しました。

イベント名	開催日	参加者数
写真展 2018	4/13~15	301 名
マラソントークカフェ	5/5	10 名
大阪マラソン「みんな de ラン」	5/20、6/17、10/8、11/3	76 名

TCH メンバートーク「LIVE DEEP～子どもと家族が歩んだ時間と子どもホスピス～」	1/20	16 名
TCH 地域で支える小児緩和ケア講演会	2/17	16 名
サポーターズカフェ	概ね月 1 回	105 名
ふらっとカフェ（定例）	毎週金曜午前（祝日除く）	31 名
見学・視察	1～3 月を中心に	238 名

②「広場」連携プログラム

子どもたちの創造性と協働性を育むことを目的とした様々な企画を外部より募集し、セミパブリックエリア（つるみカフェ、おおきな部屋、みんなの中庭）を利用できる「『広場』連携プログラム」。2018 年度は、継続団体が 4 組、新規団体が 2 組、合計 6 組の団体にプログラムを実施いただきました。公共施設でのプログラムに参加しづらいメンバーの子どもが安心して参加してもらえるため、新たな地域交流のステップとしても、とても有意義な機会になっています。

主催団体名	企画内容	開催日	参加者数
プティパの会	医療的ケア児の保護者交流会	7/21	21 名
おやこの KIZUNA プロジェクト	あおぞらベビーマッサージ	4/23	4 名
	メイク（眉）体験&ふれあそび	5/21	6 名
	芝生ではじめてのしゃぼん玉あそび	6/30	10 名
	子育てハッピーアドバイス	7/16	7 名
	音楽&英語わくわくあそび	9/15	11 名
	こころと体の根っこを育てるうんどう遊び	11/16	6 名
	メリークリスマス～親子で楽しむクリスマス～	12/17	12 名
NPO 法人しぶたね	中学生からのきょうだいの日	8/4	6 名
ウィングス医療的ケア時などの がんばる子どもと家族を支える会	第 3 回ウィングス・カフェ IN 大阪～医療的ケア児等を育てる家族と支援者が集まって語り合う会～	9/1	22 名
NPO 法人ジャパンハート	親子で楽しむコーヒーセミナー	10/20	13 名
心疾患児の遊び広場「いろいろ」	風であそぼう	5/18	9 名
	手作りじょうろで水遊び	7/21	11 名
	水遊び&やさいスタンプでうちわ作り	8/20	8 名
	新聞紙で遊ぼう	9/21	10 名
	ハローウィンパーティー	10/15	11 名

2) 原っぱ活動としての取り組み

①原っぱ整備に関する取り組み（大芸大との連携）

大阪芸術大学・福原教授の学生チームの協力により、8/18 の「夏あそび」企画運営のほか、下記の整備を進めていただきました。花壇でのお野菜づくり、野菜の収穫や芋ほりなど。体験プログラムや子どものパーソナル活動の中で、できた野菜を楽しむことができました。

②原っぱメンテナンスと園路の設置整備【2018 年度日本郵便の年賀寄付金の助成支援】

「原っぱ整備」を担うボランティアの協力により、広場の植栽の維持管理を推進。18 年の夏は猛暑の日が続き、秋は台風もあり、一部の草木が枯れてしまうこともありましたが、大芸大のご協力でそれらを一部復活していただきました。また、年賀寄付金から助成をいただき、広場に念願の園路を設置することができ、3 月から地域の方々の通行がぐっと増えてきました。

3・広報・ファンドレイジングの取り組み

フリースタANDINGな立ち位置から、ともに子どもの尊厳を守ろうとする地域社会づくりを丁寧に、かつ、広く届けていくことが、TCH のファンドレイジング活動の軸になっていています。2018 年度も、活動の持続性に協力いただける、個人、団体・企業を増やしていけるように努力しました。

1) メディアや学会等における広報・発表、自主的な発信の活動

①メディア、表彰系の取り組みとして

2018 年度も、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌など各メディアに取り上げていただきました（計 8 回）。とくにメンバー家族のストーリーが取り上げられるなど、子どもホスピスのケアの特徴やメンバーご家族の当事者としての想いやつながりを発信することができ、地域社会にメッセージを届ける大事な機会になりました。

②地域社会への発信と広報活動

「TCH 写真展 2018」や、秋のファンドレイジングイベント「ちょきん DE ぼきん」イベントを開催。「サポーターズカフェ」（支援者向け説明会）の開催や、関東方面のアンバサダーの協力を得て広報と交流の活動の機会を作り、広報活動を精力的に進めました。

③医療関係者に向けての広報および発表（他、講演依頼もあり）

コミュニティ型子どもホスピスを医療や福祉関係者に知っていただくための発表を積極的に行いました。

- ・第 6 回小児緩和ケアチームカンファレンス（10/27）「地域とつくる小児緩和ケアの実践とは～TSURUMI 子どもホスピスの取り組みから～」
- ・大阪市立総合医療センター こどもサポートクラブ(11/30)「地域とつくる小児緩和ケアの実践とは（メンバーケース紹介）」
- ・京都大学医学部附属病院 小児緩和ケア勉強会（3/22）「生命を脅かす病気（LTC）の子どもと小児緩和ケア～地域で支える、こどもホスピスの取り組み～」

2) ファンドレイジングの活動

マンスリーサポーターや年額スポンサーの拡大、大阪マラソンによるファンドレイジング活動の強化、アンバサダー（3 名）による広報の機会の拡大など、様々なファンドレイジング活動を行いました。また、寄付イベントを企画し募金を集めるチャリティプロデューサーの活躍が目覚ましいものでした。PR & ファンドレイジング活動を通じて、地域協力者の輪を広げ、ファンドレイジングの力をつけてきています。様々なご支援いただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

①継続的な寄付者の拡大の促進

TCH マンスリーサポーターの拡大を進め、継続的にご支援いただく寄付者が徐々に増えています。今後このサポーターの拡大が重点項目の一つになっています。引き続き、ご支援・ご協力ください。

○マンスリーサポーター／年額スポンサー125 名・団体（昨年度より 32 名・団体増加）

○賛助会員 13 名・団体（18 年度で終了）

②一時寄付収入の拡大

□個人や団体自身からの一時的なご寄付

メディア広報や関係者のつながりから、TCH の取り組みに共感して、一時寄付という形で、197 件のご支援をいただくことができました。

□協力・連携による寄付活動（チャリティ・PR機会の設定による）取り組み

団体や個人有志によりチャリティ企画を実施し、募金や売上の一部を TCH にご寄付いただく「チャリティプロデューサー」としての活動

- ・チャリティコンサートでの募金活動...大阪府医師会フィルハーモニーなど
- ・チャリティバザーの収益のご寄付...メンバーの子どもたちによる、地域イベントでの募金活動
- ・チャリティコンペによる募金活動...SPBANK のバレーボール大会でのチャリティ活動など
- ・大阪マラソンランナー寄付イベントの開催...一社）ワーシャル主催の寄付イベントの開催
- ・店舗を使ったエキシビション...ユニクロホスピスデーの開催（大阪市内3店舗、期間限定で）

このような外部の団体のご協力によるチャリティ活動を通じた PR 活動は、子どもホスピスの存在と意義周知する機会となり、大変心強く感じました。

□社会貢献型自動販売機によるご寄付：設置合計台数は 14 台になりました。

□ファンドレイジングイベントによるご寄付：第 8 回大阪マラソンによるご寄：

昨年度に引き続き、第 8 回大阪マラソンの寄付先団体として採択され、マラソンチャリティの活動を進めました。TCH を支援して下さったチャリティランナーは 83 人にもなり、大変多くのご支援を得ることができました。そのうち、継続チャリティランナーになって下さった方が 17 名。また、メンバー家族（7 組）がチャリティランナーとして走って下さいました。大会当日は、ボランティアやメンバー、支援者が応援に駆け付け、沿道応援団として、一緒に盛り上げていきました。

3）新規財源の獲得のための活動：各種助成金の申請と財源拡大

2018 年度、組織基盤の強化のための運営助成の他、各種プログラムに対する助成金をいただき、様々なプログラムを実施することができました。

- ・平成 30 年度重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成（公益財団法人ベネッセこども基金）
- ・TSURUMI こどもホスピスにおける運営体制の強化（公益財団法人日本財団）
- ・第 8 回大阪マラソン寄付金（第 8 回大阪マラソン大会）

※以下は、17 年度から 18 年度に渡って支援いただいている助成金です。

- ・平成 30 年度重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成（公益財団法人ベネッセこども基金）
- ・TSURUMI こどもホスピスにおける運営体制の強化（公益財団法人日本財団）

4）事業収入による財源の獲得

各店舗等にキャット端末を設置する事業による収入として 727 万円を得ることができました。

5）寄贈や企画協力によるご支援

企業・団体や個人の方より、様々な企画の協力や現物のご寄付をいただきました。アドベンチャーワールドご協力によるふれあい動物園イベントや大阪芸術大学福原ゼミの皆さんによる夏あそびの企画など。

そして、私たちハウスが必要としているお茶やお菓子や飲料や希望の品をウィッシュリストに掲載し、それらのご寄贈をいただきました。



4・ホスピスの活動を支える人材と組織基盤の強化活動

あらゆる子どもたちにとって、多様な人との出会いは大事な機会です。そして、個々の思いや互いの弱さを補いあい、運営面をより円滑に進めていくためにも、TCH の活動にボランティアの存在は欠かせません。2018 年度は、継続ボランティアとメンバーボランティア（新規）のご協力を得て様々な活動を進めました。

1) TCH におけるボランティアマネジメントの体系と活動の概要

①ボランティアに関する基本的な考え方

TCH の理念に共感し、理解し、ともに汗を流そうとするボランティア。活動体系とボランティアになるための手順と要件を整理した上で、募集・面談・研修（養成）・活動を実施しました。2018 年度は、従来のキャストボランティアの他、メンバーが活動に協力する「メンバーボランティア」を実施。3 組のメンバーにハウスキープ活動にご協力いただきました。

- ファミリーサポート・ボランティア ○フレンズ・ボランティア（①ハウスキープ、②イベント）
- テクニカルボランティア ◎メンバーボランティア

□まなび支援の学生ボランティアや、学生に伴走するボランティアの養成

大阪教育大学、大阪大学の「まなびバ講座」を修了した学生が、TCH を利用するメンバーに関わるボランティアとして活動しました。

④ボランティア活動の概要

キャストボランティアは、TCH の活動の様々な場面をサポートし、スタッフとともに TCH を作り見守るスタッフです。ボランティアによる活動時間は合計 1176 時間になりました。ありがとうございました！

活動種別	主な活動内容	時間数
ハウスキープ	ハウス掃除や原っぱメンテナンス活動※メンバーボランティア含む	244 時間
イベント	活動の運営補助（受付、記録、各種補助）などの活動	181.5 時間
ファミリーサポート	子どもやファミリーのケアをサポートする活動	289.5 時間
クリエイティブ	映像、デザインなどクリエイティブな技術を提供	4 時間
他、単発、団体連携	ビリーブの活動、他団体の協力による活動など	457 時間

2) 組織運営の強化と財政面について

①法人運営（ガバナンス）の整備

□総会の開催

社員総会は 9 名全員の出席により、理事の選任、事業報告・決算、事業計画案、定款変更案等について協議し、承認しました。

□理事会の開催...どの回も、会場は TSURUMI こどもホスピス

開催日	主な審議事項	出席者数
5/18	17 年度決算報告、18 年度計画・予算、事務局体制、定款変更など	6 名
6/25	代表理事、業務執行理事の推選、正会員の構成について	7 名
10/18	上半期報告、下半期計画と補正予算、個人情報保護方針、公益法人申請について	6 名
2/20	19 年度計画と予算案、組織体制・賃金規定案、利用者承認の利用区分案等	6 名

（2018 年度理事・監事） 代表理事 高場秀樹 副理事長 原 純一 常務理事 多田羅竜平
理事 安道照子 坂下裕子 水谷 綾 山縣敦彦 監事 奥谷敏之

□利用者承認委員会の開催

TSURUMI こどもホスピス（TCH）は、TCH 利用を希望するご家族からのエントリー後、利用者承認委員会での承認を得た方にご利用いただきメンバーになる仕組みになっています。2018 年度は、利用者承認委員会を 2 回開催しました。

回	開催日	主な審議事項	出席者数
第 1 回	9/20	ケア概況報告、承認・更新のシステム整備、メンバー承認手続き	4 名
第 2 回	3/1	ケア活動の概況報告、次年度ケアプラン・メンバー規約、メンバー募集 に関する変更点について、メンバー協議及び承認手続き	4 名

（2018 年度 利用者承認委員一覧※2018 年度末のご所属・役職）

岡府寺 美	（公財）チャイルド・ケモ・サポート基金 事務局長
新家 一輝	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 統合保健看護科学分野 小児看護学 講師
船戸 正久	大阪発達総合療育センター副センター長 医療型障害児入所施設フェニックス園長
丸 光恵	甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 看護実践学分野 国際看護開発学領域 教授
矢野 朋子	佛教大学 保健医療技術学部 看護学科 助教

□TCH の取り組みへの助言、応援協力

TCH アドバイザー（ケア活動の助言等） 副島賢和（昭和大学教授）、清田悠代（NPO 法人しぶたね）

TCH アンバサダー（広報活動の協力） 新川五月、渡邊龍男、廣川絵理花

②スタッフ体制の強化

2018 年度は、以下のマネージャー体制のもと、常勤・非常勤のスタッフを配置し、運営を推進しました。

□TCH スタッフキャスト

- ・ゼネラルマネージャー（全体統括） 水谷 綾
- ・アシスタントケアマネージャー 市川雅子（看護師）、大矢佳代（保育士※7 月で退職）
- ・ホスピススタッフ 饗庭真祐美（保育士）、青儀祐斗（理学療法士）、西出由実（看護師）、古本愛貴子（看護師）・ケア検証スタッフ 辻ゆきえ（看護師）
- ・事務・ハウスキープスタッフ 岩井弥生、小林喜美子 ・臨時スタッフ（原っぱ等）鈴木康太、藤原嵩大

③財政面の動向と次にむけて

2018 年度は、昨年度に引き続き、日本財団運営支援金など支援やご寄付等により、ケア活動の充実を図り組織のファンドレイジングの基礎作りを進めました。これまで日本財団様よりいただいた大型の運営助成は 2018 年度で終了します。今後は寄付者の拡大と新しい支援者の拡大を図り、財源の拡充に努めてまいります。

<2018 年度収支実績>

収入	(万円)	支出	(万円)
賛助会費収入	46	人件費	2,309
一時寄付収入	938	事業経費	1,585
継続寄付収入	488	管理経費（賃借・税金含）	1,149
大阪マラソン寄付収入	1,278	次年度繰越	1,747
運営助成収入（日本財団）	2,543		
事業助成収入（日本財団、ベネッセ他）	731		
事業収入	749		
その他収入	17		
合計	6,790	合計	6,790